

「農業は感動産業です！」

その3



蘭越町 農業

及川 かをり

とりあえず雪さでハテる事もなく、雨で予定の作業が順延になる事もなく、いつから夏が始まったのか、いつ終わっちゃったのか、空気はすでに秋です。まだ八月なのか、もう八月なのか、考えている間もないまま収穫は後半戦に入っています。農作業に携

わってからのこの五年間は、なんだか毎年天候不順という言葉を目にしているように思っています。

毎年天候がちがうのですから教科書どおりにいくはずもなく、栽培経験が未熟なわたくしたちの農園では管理作業も充分に行き届かない結果、天候不順になってしまっているのでしょうか。

この時期になると、なにか

の拍子に毎年必ず話題にのぼる四年前の八月三十一日の悲しい出来事を忘れる事はありません。わが及川農園では八月三十一日（やさいの日）事件として、この事件の犯人であるわたしは、深い反省と緊張の日々をおくることとなっております。

その事件とは、春から丹精込めて育てたトマトをビニールハウスごと蒸し焼きにしてしまうという、おそろしい出来事であります。この時期は、夜温が低くなるため夕方にはハウスを全閉にし、早朝換気するのですが、その日は朝から曇天露雨でした。キツネ雨とこの辺ではいつておりますが、雨なのに時々薄日が差すような、そんなお天気だったので。



及川 かをり (おいかわ かをり) さん

札幌市生まれ

1998年より蘭越町富岡在住

夫 肇 41歳

長女 知香 中1

長男 洸一朗 小6

次女 智世 小1

2.2haの農地で約30種類の野菜栽培

配達に出かけた留守を預かっていたわたしは、気温もそんなに高くはないし教科書では雨の時は水が入らぬようハウスを閉めるとありましたので、びっちりハウスを閉めてジャガイモの選別をしていました。

二時間後、ふとトマトのハウスを見ると、中が真っ白け。何だろうと、扉を開けた瞬間、ポハッと熱い水蒸気が吹き出してきました。やっと四段目を収穫したばかりのトマトは、無残に煮トマトとなつてしまい、手のつけられない状況でした。この現実を配達からもどった夫になんて伝えようか、絶対怒るだろうなあ。正直に話せばきつと理解してくれるはず…。そんなキレイ事などありえるはずもなく、一週間

ほどトマトの喪に服し、針のムシロ生活を余儀なくおくることとなりました。プロプロにやけた房なりのトマトを一輪車にのせて、重い気持ちと重い足取りでトポトポ片付ける時の言いがたいほどの苦痛は、やかれた青いままのトマトに比べれば。

ほんの少しの日差しで、ビールハウスの中はサウナのようになってしまうのだということを、身をもって体験させていただきました。前向き思考の長女だけが、トマトケチャップを作れば良かったのに!“と、なぐさめてくれました。

明らかに人為的ミスではありませんでしたが、ある意味よい勉強になったと(夫には言えませんが)ちょっと思っています。

この時の経験を踏まえ、全
閉恐怖症と闘いながら、今年
もビニールハウスの管理に怠
りはありません。が、また今
年も何かの拍子にこの話題が
出てしまい、針のムシロの

日々も間近に迫っていること
にちよつとびくびくしている
のです。

人為的ミスなのか、そうで
はないのか今年はトマトの色



今年のトマト

付きが冴えませんが、今年も
やっぱり天候不順。それでも
ベテラン農家がぼやいたりテ
レビのニュースなどでも天候
不順、天候不順といっている
ようなので、今年こそ本物の
天候不順なのでしょう。天候
相手のこの仕事には厳しい条
件が続いています。わが農園
の野菜たちは、厳しい天候条
件に加えての未熟な栽培管理
の中、なんとか種の存続をか
けて花を咲かせ、実を結ぼう
としています。なかなかヤル
ナ！と、わたしたちはこの生
命力に驚きと感動をおぼえる
日々です。

もいでした。思う様に収量が
あがらず、注文のアスパラガ
スをまっておられる方々から
の電話の対応に少々疲れ意味
の都合でしょうと言われても、
天を仰いで雨乞いをするだけ
の無力さに、成すすべがみつ
かりませんでした。申し訳な
いとおもいつつ、こんなにア
スパラガスが頑張っているの
だから、もう少しだけお待ち
下さいとお願いしたところ、
多くの方が理解をくださいま
した。

作物にひとつでも実がなれ
ば、出来た出来たと喜んでい
る及川農園ですが、周りを
よくみると、実がなっ
ただけでは、出来た出来たと
喜ぶことでもなさそうです。

また、できたらできたで、みんなができてしまえば農産物というものは、値崩れという現象を引き起こし、秀品豊作なのに赤字になってしまいません。豊作貧乏と言うのだそうです。

「反あたりの収量・秀品率がどれくらいなのか、ここが出来た出来ないの分かれ目なのです。やっぱりプロは、愛情を込めて作物を育てるも、その愛情にはプロらしい一線があり、商品は商品として客観的にみる厳しさが必要なのかもしれません。愛しさのあまり、目に霞がかかってしまっ

てはいけないのです。」
学生時代、アマルビハイビ
ア(動物行動学)を学んでいま
した。そんな癖からか、農村に

おける農家の行動には大変興味をもつてしまつたのです。

いったい何時食事を取っているのだろうか?とか、何時寝ているのだろうか?とか、まわりの農家はいつも仕事をしており、不思議な事がいっぱい

です。
常に作業の先頭をきる○○
家が草刈をはじめるとその隣りまた隣りと草を刈り始めます。ひよつとすると、常に作業の先頭をきる○○家よりも先に作業を始めてはいけないの法則とか、隣りが草刈をはじめたら草刈をする法則とか、農村には、不文の法則が存在しているのでしょうか。

小心者なのに以外とマイペースな及川農園は、ひよつとして掘破りをしているかもしれないのですが、そのうち

わかるべ」と見逃してもらっているのでしょうか。

就農当初、サラリーマン出身らしくフレックスタイムを採用していた及川農園主ですが、今は朝もやの中を爽やかに出勤しています。それでも、ここでは一番遅出なのです。

「いやあ!早いねえ。精だしてや!」と声をかけて下さる先輩は、近所のうわさだと毎朝ようやく人がぼんやり見えてくる明るさの頃には、すでに田圃のなかでひと仕事を終わっているらしいです。

なるほど朝方は蚊の襲撃にもあわず、涼しいので仕事もはかどります。これぞ、朝飯前という仕事のやり方かと感じします。早起きは三文の得なのです。

こうしなければいけないと

いう決まりがあるわけではなく、ありがたき周囲の先輩達が、そして作物たちがこうしたほうが良いですよと、寛大に教えてくれるのです。見習いたいものだ、常々あこがれと尊敬の念を持ちつつも、

早朝三時起きまでには、まだまだ修行が必要のようです。

日の出と共に仕事を始めないので、お昼に昼御飯がたべられず、日が沈んでも仕事が終わりません。うす暗闇で草取りをするわたしたちに「明日出きる事は明日やるべ!」とやさしく声をかけてくれる某先輩は、明日出きる仕事は昨日のうちに終わっているらしいです。

このように完璧な実践教育現場で、あたらしい取組みが



勉強会

はじまっています。イエス！
クリーンの認証許可を得るた
めの低化学肥料・減農薬トマ
ト栽培です。

農協から田縁主任、普及所
から先生を招き、学習会をひ
らいてもらっています。みんな
はじめての試みだから、オ
シラも及川さんもおんなじス
タートよ。」と語ってくだる先
輩達と机を並べて勉強会に参
加しています。講師の佐藤普
及員・庭田普及員の授業は、
毎回当然知っているようで実
は良くは知らないのをついた
内容で、二時間があったといっ
まです。低農薬と減農薬、いつ
たいどっちが農薬が少ないの
か？などという質問にも、わ
かりやすく丁寧にしかも奥深
く答えてくださいます。一〇
人ほどの生徒ではもったいな

いとおもいます。

畑の現場では、対症療法的
な指導が主流なので、実際に
使っている農薬や化学肥料に
ついても、その商品名や反に
なんぼとか希釈が何倍かとか
をおぼえる事が先決となって
しまいます。次々と展開する
植物の成長と異変にたいして
は、けっこう勘とか運とかに
頼る事が多いのも事実です。
勉強会で基本的な植物の生理
や薬品の特性を学び知識を得
る事によって、さらに勘がよ
くなったり、運がよくなった
りするようにかんじています。
このような勉強会は、みんなで
すると一層励みになります。
机上的な知識と経験的な知識
がうまく融合してより良い結
果に結びつき、農業が更に楽
しくなりそうです。



もぎたて市

もうひとつのあたらしい取り組みが、とれたて新鮮もぎたて市です。農協購買部の店舗に地元の農家が朝どりの野菜を直接販売するコーナーができました。牽引役は、やっぱり元氣いっぱいのお母ちゃんたちです。試行錯誤で始まったこの企画でしたが、五月のアスパラガス・山菜からはじまって四カ月、野菜の種類もにぎやかになり参加者も増えて、購買者から好評を得て順調です。担当職員の石岡君もおばちゃんパワーに負けないアイディアマンです。これから益々おいしい企画が期待できそうです。

低温乾燥日照不足に台風、市場価格の低迷に凶作、そんな時にも農家の人々は手間を

惜しまず、もくもくと作物の世話をしています。こんな年は二年も続かないべ、二年も続けば農家はおしまいさと言いながら何百年の間農家をつづけているのです。カボチャの値段がおもうように付かなくとも、ぎっと来年は当るぞ”という博打つ気が、農家のたくましさを源なのかもしれません。原吉じいちゃん、さやいんげんを一発豆（いっばつまめ）と言います。市場の値段が良い時を狙って作付収穫すると大儲けなのだそう。ずっと昔に一発だけ当たったという話しか聞いた事ありませんが、ことしも一発当てようと狙っているようです。

さて、明日は（明日も？）早起きするぞ！